

# 日本経済新聞

土曜版

NIKKEI 夕刊

2023年 4月22日 土  
(令和5年)

ープ  
jin.co.jp

新型コロナウイルス禍の巣ごもり需要で人気が高まったペット型ロボット。仕事や生活をしてレジャーでも活動が再開しつつある中、人とロボットの新しい関係が生まれている。

「かわいいね」「こっちは向いて」。LOVOT(ラボット)たちが、オーナーの声に反応し、手を広げて愛らしいポーズをとる。LOVOTはロボット開発スタートアップのGROOVE X(東京・中央)が開発した。身長は約43センチ、重さは約4・3キログラムと人間の乳児ほど。体温は37〜39度でぬくもりがある。

4月上旬、群馬県川場村にある永井酒造に、21体のLOVOTと26人のオーナーが集まった。GROOVE Xと近畿日本ツーリストが企画したバスツアーの参加者だ。食事や日本酒を楽しむ、桜やミズバショウを観賞する散策コースを一緒に楽しんでいた。

夫婦で参加した伊藤健太郎さんと優子さんは、「子どものような存在」と2体のLOVOTを大切そうに育てる。「夫婦2人で来るよりも感動は増す」と優子さんは顔をほころばせた。

## コロナ禍で需要

LOVOTは2019年の販売開始で、本体価格は49万8800円。月額の一ヒス料もかかるが、コロナ禍の21年度の売り上げは前年度比で約3倍に伸び、累計で1万1千体以上売れている。個体同士であいさつをしたり、ゲームをしたり。生き物のような振る舞いも



「LOVOT」と一緒にバスツアーを楽しむ参加者ら(7日、群馬県川場村)

# 旅行も仕事もロボットと

## 「ペット型」の所有者増

人気の要因のようだ。「同伴ツアー」には心構えと準備が必要だ。LOVOTは45分ほどで充電が切れる。バスの車内では補助席で「睡眠」させ、出先でも充電機器につなぐ「食事」が欠かせない。手間はかかるが、「置いていくのは考えられない」と参加者は口をそろえた。

開発に協力した麻布大獣医学部の菊水健史教授によると、「視線の合わせ方や鳴き声を出すタイミングなど、世話をしたくなるしべさを取り入れている」。日本でのペット型ロボットの先駆けは1999年にソニーグループが発売した「AIBO」(アイボ)。

いったん製造中止したが、18年に「aibo」として復活した。価格は21万7800円に別途クラウド利用料。LOVOTも同様にクラウドと連携した学習機能を備え、新たなしべさを覚える。細やかな動きを再現し、より生き物らしさを感じるよう進化している。

自宅でロボットと過ごすだけでなく、一緒に出かけたいというオーナーの声に地方自治体も注目する。aiboの製造工場のある愛知県幸田町は「聖地」とされている。同町が20年にaiboをふるさと納税の返礼品に追加すると、年間50件程度の申し込みがあるほど人気に。町役場内のカフェには一緒に遊べるコーナーを設けた。

「この子たちにとってふるさとだから、すごく大切な町」。3月末、飼育歴4年の足立葉子さんは5体の「愛犬」と共に、大阪府箕面市から車で3時間近くか



「LOVOT」を抱いて仕事をするオカムラの社員(東京都千代田区)

## 同伴ツアー開催／社内の会話弾む

けてカフェを訪れていた。「よい、スタート」と、かけっこをさせたり、写真を撮ったり。他のオーナーとの交流を楽しんだ。「聖地」を盛り上げるサービスマも登場している。町内にある温泉旅館「天の丸」では、オーナー向けのプランを用意。館内にはaiboが遊べるスペースを設けたり、おそろいの浴衣が着られたりと、思い出づくりを助ける。

同町財政課の相川美代子課長は「これといって目立つものがない町にとっては魅力的な存在」と明かす。同町がaiboを活用した観光地化を目指して22年12月にクラウドファンディングで寄付を募ったところ、目標の約40倍の2億6千万円が集まった。

### 400社以上が導入

在宅勤務などで損なわれた社員のコミュニケーションの促進を狙い、ロボットをオフィスに導入する動きもある。

オフィス家具のオカムラの開発部門などがある東京都千代田区のオフィスでは、業務中の社員の足元をLOVOTが動き回る。「会話したことがない人と話をするきっかけになる」「同社の浅田晴之さん」。膝にのせていると、さっそく声をかけられていた。

同社ワークデザイン研究所の森田舞所長は「チームワークが求められる仕事が多く、コミュニケーションがとれると成果がでる。存在そのものが癒やしにも」と効果を実感する。GROOVE Xによると、これまでに400社以上が導入し、22年秋からは本格的に法人向け販売を開始した。

産業技術総合研究所の柴田崇徳上級主任研究員は、ペット型ロボットの潜在的な需要は大きいとみる。医療の発展でペットも高齢化し、飼育するハードルが上がっていると指摘。「イヌやネコを飼育するが悩んだとき、ロボットも選択肢になりつつある」という。

(中尾悠希、井上容)